

CSRマネジメント

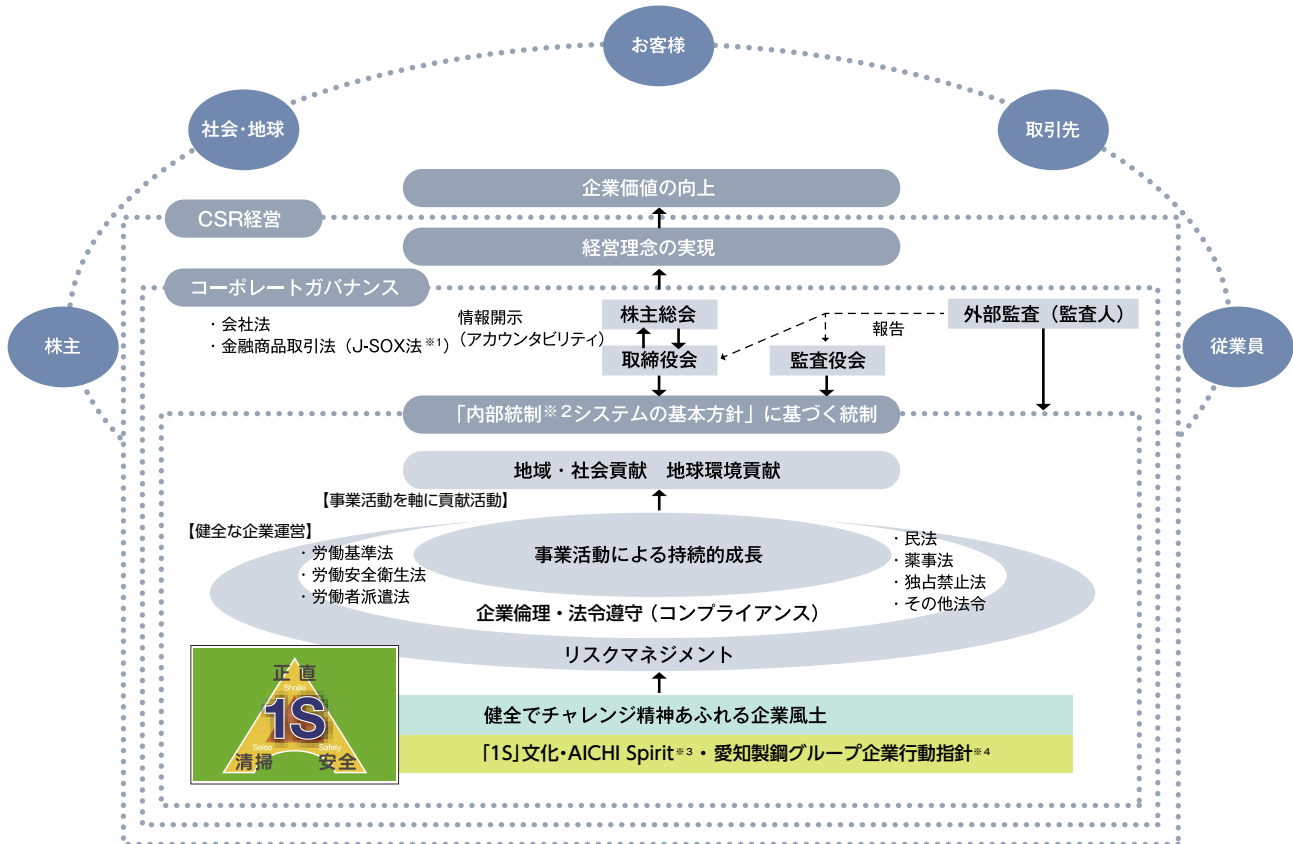
CSRの推進はアイチグループが長期安定的に成長し発展していくための基盤であり、企業統治の前提です。当社は、社会・地球の持続的発展に貢献するとともに、全てのステークホルダーから信頼されるCSR経営を実践するため、「CSR長期ビジョン」を制定し、CSR中期計画に基づいた施策を行っています。

また、1998年に制定した「愛知製鋼企業行動指針」をアイチグループ全体へ拡大すべく2007年に見直し、グローバル経営での行動規範とした「愛知製鋼グループ企業行動指針」を定め、アイチグループ全社におけるCSR経営のよりどころとしています。

CSR推進体制

社長を議長とした「CSR会議」を開催し、CSR経営の確認・報告を行っています。2016年度より、更なるCSR体制の強化を図るため、CSR会議を従来の年1回(3月)から年2回(10月、3月)開催とし、年度中にCSR経営の中間確認・報告を行っています。

CSR概念図



※1 J-SOX法：日本版企業改革法。米国のSOX法(サーベンス・オクスリー法)にならって日本で整備された法律で、会計監査制度の充実、内部統制の強化を求めている。

※2 内部統制：コーポレートガバナンスの一環として、業務が健全・効率的に行われるよう、各業務で決められた基準や手続きに基づいて管理・監視・保証すること。特に、不正な財務会計処理を防止するための基準やしきみをつくり、それが適正に運用されていることを監査し、証明すること。

※3 Aichi Spirit：愛知製鋼の思考や価値観など、心のよりどころとされる企業の「遺伝子」をわかりやすい形で表したもの(2006年7月制定)。

※4 愛知製鋼グループ企業行動指針：企業活動を行ううえでの日常の具体的な行動規範(2013年10月改定)。

愛知製鋼の重要課題(マテリアリティ)

昨年、持続可能な社会の実現によりいっそう貢献していくために、アイチグループが社会に与える影響と特に重要な側面を分析し、事業活動を通じて取り組むべき課題を「愛知製鋼の重要課題(マテリアリティ)」として特定し6つに分類しました。これらの課題の解決に向け、CSR目標・計画を策定して取り組んでいます。

重要課題(タイトル)	分析マップで特定した要素	重要経営指標	該当部分
1 グローバルでのコンプライアンス意識の向上と持続可能な企業体質の強化	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス(環境) コンプライアンス(社会) コンプライアンス(製品責任) 	<ul style="list-style-type: none"> 環境マネジメントシステムの監査結果 コンプライアンスの強化に向けた各種取り組み状況(講演会や社内監査の開催回数:計画対実績(%)) 第三者機関による認証および審査 	<ul style="list-style-type: none"> → P.22, 33 (環境監査結果) → P.22 (コンプライアンス教育) → P.22, 29 (第三者機関による認証)
2 すべての社員がより安全で働きやすい環境づくりの促進	<ul style="list-style-type: none"> 労働安全衛生 労働慣行に関する苦情処理の仕組み 多様性と機会均等 	<ul style="list-style-type: none"> 社内基準により選定された安全評価に基づく設備改善状況、安全対策・安全意識強化に向けた取り組み状況、および休業災害度数率 社内の相談窓口を通じて申し立てられ、対応し、解決した労働管理に関する実績(実績件数) 多様な働き方を支える各種支援・制度およびその利用状況 	<ul style="list-style-type: none"> → P.28 (休業災害度数率、安全な場づくり) → P.22, 25, 28 (内部通報制度、人権の尊重への取り組み、メンタルヘルス活動) → P.26 (ダイバーシティへの取り組み)
3 安心・安全でグローバルに新しい価値を与える競争力に優れた製品の提供	<ul style="list-style-type: none"> 製品およびサービス 研修および教育 マーケティング・コミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> 品質向上に向けた取り組み状況(表彰件数とその内容) 営業マン教育・品質向上活動(回数、参加人数など) 顧客からの評価収集(収集件数とそれに対する改善・解決件数(%)など) 	<ul style="list-style-type: none"> → P.30 (グループ会社の受賞) → P.30 (営業教育) → P.30 (お客様からの評価収集)
4 地域コミュニティとの関係強化と積極的な社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> 地域での存在感 地域コミュニティ 	<ul style="list-style-type: none"> 社内基準により選定された社会貢献活動の実施状況(社会貢献の参加人数:集計基準を明確化し定点観測) 地域コミュニティとのコミュニティ進行プログラムの実施状況(計画とそれに対する実績) 	<ul style="list-style-type: none"> → P.31 (ボランティア年間参加人数) → P.32 (地域との交流)
5 地球環境と調和したモノづくりにむけた取り組みの強化	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー消費量 大気への排出 排水および廃棄物 生物多様性 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー使用量(CO₂排出量)内訳 直接および間接の埋立量 生物多様性の保全に向けた取り組み状況(森づくり、ボランティア件数など) 	<ul style="list-style-type: none"> → P.34 (CO₂総排出量) → P.35 (直接・間接埋立量) → P.35 (自然共生)
6 安定的・持続的成長を支える強固な財務基盤の確立	<ul style="list-style-type: none"> 財務パフォーマンス 	<ul style="list-style-type: none"> 収益性(営業利益、ROEなど) 健全性・資産効率(純資産、自己資本比率など) 	<ul style="list-style-type: none"> → P.37 (2016年度の財務報告) → P.37 (2016年度の財務報告)